

平成26年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立開成小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成26年4月22日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

| 主として「知識」に関する問題 〔国語A, 算数A〕 | 主として「活用」に関する問題 〔国語B, 算数B〕 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など | <ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容 |

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

| 児童生徒に対する調査 | 学校に対する調査 |
|-----------------------------|--|
| 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 | 指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査 |

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は、小学6年生（中学3年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。

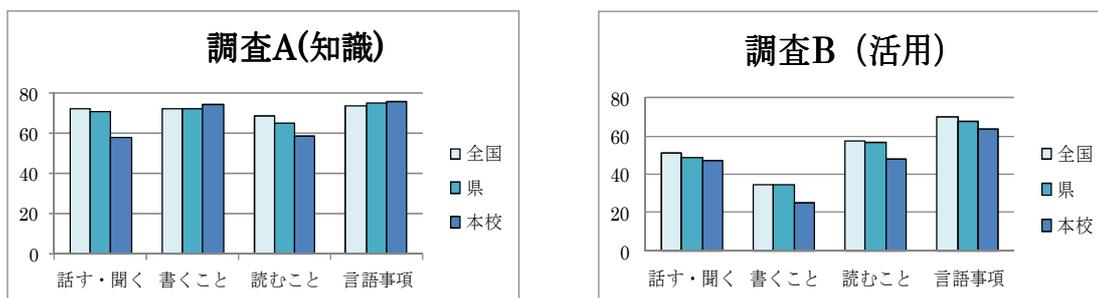
したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国・県正答率との比較



調査 B(活用)では、各領域での正答率が全国平均を下回った。特に書くことの領域で全国や県との差が見られる。また、「短答式や記述式の問題の無回答率が高い」ことも要因のひとつであると思われる。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・目的に応じて話し合いの観点を整理する問題では、18.8%の児童が無回答であった。県5.6%、全国7.9%に対して高かった。発言の内容をメモしたりまとめたりする力をつける必要がある。

書く

・情景描写を正しく理解し適切なものを選択する問題では、県を12%上回っている。意識調査の国語とも関連するが、国語の学習を好きと答えている児童が県の倍近くいる。しかし、調査 B(活用)の問題では、正答率が25%と県や全国と比較して下がっている問題もある。また、無回答率が51%の問題もあり県や全国の倍になっている。問題の提示条件を正しく掴み、条件に即して自分の考えを書く力をつける必要がある。

読む

・課題を解決するために目次や索引を活用して本を効果的に読む問題では、正答率が47.9%と全国、県と比較して低い。さらに無回答率も18.8%と高い。教科書を使ったり読書をしたりする中で、設問の意図を掴む力を身につける必要がある。

言語事項

・漢字の読み書きや、故事成語の意味と使い方を問う問題は、全国、県の正答率を僅かであるが上回っている。基本的な言語事項を身につけている。しかし、二つの詩を読み比べ表現の工夫を問う問題では、正答率が下がっている。今後は、いろいろな言葉を活用して使える語彙力をつける必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 朝の読書、読み聞かせ活動を毎週月曜日に位置づけ、本に親しむ児童の育成を目指しています。また、図書館利用を図りさまざまな本に出会う機会を設けています。
- 日々の授業を通して、相手が伝えようとする考えや意見を聞き取るよう指導していきます。また、それを受けて自分の考えを表現し意見交流する場を数多く設定していきます。
- 日ごろの学習から自分の考えをノートに書き表すとき、要点をまとめたり、伝えたい内容を分かりやすくまとめたりする力をつけるよう取り組みます。

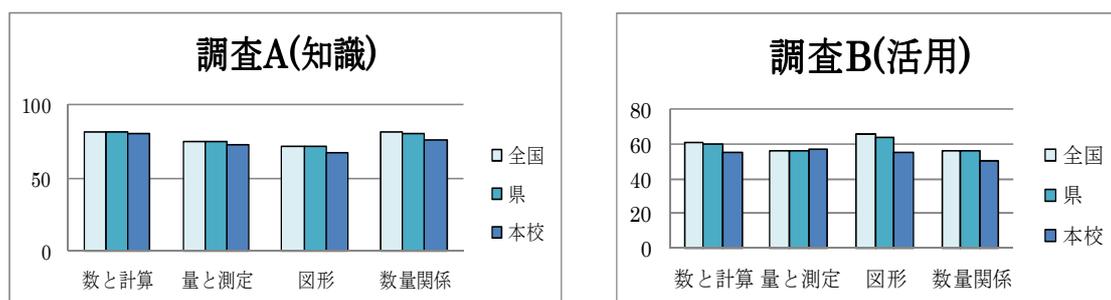
【ご家庭では】

- 宿題に出される音読に取り組んでください。毎日、繰り返すことで文節ごとになめらかに読めるようになります。そして、文章の内容や言葉の意味などの理解にも役立ちます。文章を読み、内容や要点を理解することは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 新聞を読む習慣や新聞の記事を話題にした会話の充実をお願いします。「読むこと」の能力の向上が図られます。さらに、語彙の広がりや話題の深まりが期待できます。
- 家庭で行う読書(家読)、音読など親子のふれあいを増やしていきたいものです。気持ちを伝え合うことによりコミュニケーション能力の向上が図れます。

2 算数

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題ともに、調査Bの量と測定を除いて佐賀県平均・全国平均を下回っている。領域ごとの正答率を見てみると、図形領域・数量関係の領域の問題が、全国に対して、5%から10%程低くなっている。

(2) 成果と課題

数と計算

・計算問題は全国平均とほぼ同じで上回っている問題もあった。毎週取り組んでいるスキルタイムの効果が考えられる。今後とも継続して取り組んでいく。しかし、小数倍の長さの求め方を記述する問題では、全国・県より正答率が10%以上低く、記述式で答える問題に対して苦手意識をもっていることがうかがえる。無回答率も全国13%に対して29%と高く、今後このような記述式の問題に数多く取り組んでいく必要がある。

量と測定

・示された情報を基に条件に合う時間を求める問題では、全国平均を大きく上回った。問題の図を正確に読み取ることができている。ほかの問題でも全国平均とほぼ同じ正答率が見られる。

図形

・円周の長さを求める問題や平行四辺形のかき方についての問題では、全国を5~6%下回っている。示された条件を基に、残った平面に長方形を敷き詰める問題では、全国平均を10%下回った。

数量関係

・全体と部分の関係を示すグラフの問題では、グラフの読み取りは全国平均佐賀県平均を上回っている。四則の混合した式の理解については全国平均を下回り、数量の関係を正しく理解することが大切である。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 朝のスキルタイムでは、低学年は基礎・基本の四則計算の定着をめざしスキルタイムプリントを行い、高学年は「すくすくテスト」を活用し、単元ごとの確実な定着をめざします。
- 授業では、児童が考えを検討するための視点「算数の開成」を設け、できるだけ問題解決方式を取り入れて進めます。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 家庭学習として担任より、計算ドリルや算数プリントが出されています。また、単元ごとにテストも行われています。お子さんが何を学習されているか、理解できているか、時々見てあげましょう。家族の温かい見守りと励ましの言葉は、何よりの意欲付けになります。
- 算数は、習った内容が身近な生活に役立つものです。買い物では、数と計算が役に立ちます。料理では、量や重さが必要になります。お手伝いの中には、割合が役立つことがあります。お出かけには、図形や時間・速さなども考えられます。普段の会話の中から、親子で役立つ算数を見つけましょう。ちょっと意識するだけで、算数好きになるきっかけができるはずです。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

| 《生活習慣について》 | 調査項目 | 本校 % | 全国平均 % |
|------------|---------------------------------------|------|--------|
| | 朝食を毎日食べていますか。 | 77.1 | 88.1 |
| | 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(どちらかといえばしているも含む) | 66.6 | 79.2 |
| | 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。(どちらかといえばしているも含む) | 84.4 | 90.9 |
| | 平日2時間以上テレビを見る。 | 56.3 | 61.3 |
| | 平日2時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型等も含む) | 35.4 | 30.3 |
| | 平日読書を30分以上している。 | 34.4 | 38.2 |

朝食・起床・就寝については全国平均を下回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムをつけていくことが課題として挙げられる。規則正しい生活習慣の確立が、学力向上への第一歩となる。

テレビは、全国平均より良い結果であったが、ゲームをしている時間が長い傾向が見られる。

読書については、約三分の一が30分以上読書をしているが、反面、10分未満とほとんど読書の習慣が身につけていない児童が約40%と多い。今後、家庭と協力して読書習慣の形成が大切となってくる。

| 《家庭学習の様子》 | 調査の項目 | 本校% | 全国平均 % |
|-----------|---------------------------------|------|--------|
| | 平日2時間以上勉強している。 | 19.8 | 25.8 |
| | 平日1～2時間勉強している。 | 34.4 | 36.2 |
| | 平日0～1時間勉強している。 | 45.8 | 37.9 |
| | 家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む) | 88.6 | 96.5 |

学習時間は、20%弱の児童が2時間以上と答えているものの、まだ1時間未満の児童が45%以上おり、習い事やスポーツをしていることも考えられる。放課後の過ごし方を調査し、少しずつ家庭学習の習慣を身につけさせていきたい。

| 《学校生活の様子》 | 調査の項目 | 本校% | 全国平均 % |
|-----------|-------------------------------|------|--------|
| | 学校に行くのは楽しいと思えますか。 | 57.3 | 52.6 |
| | 人の気持ちが分かる人間になりたいと思えますか。 | 80.2 | 74.1 |
| | 自分には、よいところがあると思えますか。 | 50.0 | 35.0 |
| | 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思えますか。 | 63.5 | 35.9 |

本校では、「心の教育」を中心に取り組んでいる。自己肯定感が高く自分に自信をもっている様子が見られる。また、先生との信頼関係が厚いことは、特筆すべきことであり、「学校に行くことが楽しい」という質問と併せ、児童が前向きに生活している姿が感じられる。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習（自学）についても高学年で取り組むよう推奨しています。
- 学習規律の定着に力を注いでいきます。学習に関して、基本的な事柄（持ち物・学習の仕方・姿勢・鉛筆の持ち方等）をカードにして児童に持たせ、意識付けを図ります。
- 教室の環境整備に努めていきます。掲示物など刺激になりやすいものは、整理して掲示し、児童の集中力を高めていきます。

【ご家庭では】

- 家庭学習の習慣をつけていきましょう。学年ごとに取り組む時間を決めています。宿題や自主的な学習、翌日の学習道具の準備などに取り組めるようご家族の協力をお願いします。
- 家庭学習の時間帯、テレビやゲームなど音が出るものや気が散るものは、学習の妨げとなります。家族の協力が必要になります。静かな環境で学習に取り組めるようご家族の協力をお願いします。